

いわて復興だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第182号
 令和4年2月号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切に、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催 第31回岩手県東日本大震災津波復興委員会開催

岩手全域
 ALL IWATE

令和4年2月17日(木)、第31回岩手県東日本大震災津波復興委員会が、盛岡市内のメイン会場と各委員などを結び、オンライン会議により開催されました。

委員会では、令和3年度の復興推進プランの進捗状況について同年11月末時点での見込みが示され、全213の計画指標のうち、進捗率が80%以上の指標が201指標あり、94.4%になっていること、また、三陸沿岸道路の全線開通や、いわて水産アカデミーによる水産業の担い手の確保などの各分野にわたる取組により、おおむね計画は順調に進んでいることが報告されました。

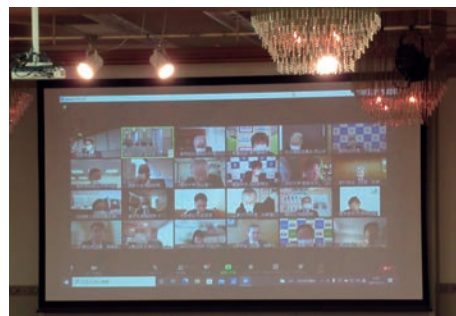
委員からは、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備えた避難計画の見直しの必要性や、多発する局所的な大雨や土砂災害への対応、こころのケアにおいては、被災から6～7年目で病状が悪化する例もあり、長期的に取り組む必要があるといった意見が寄せられ、今後の課題等について活発な議論が行われました。

全体を総括して知事からは、「新型コロナの問題に全力で取り組むことが、被災地においても重要であり、取組によりふるさとを守り、復興を果たし、地方創生に繋げていく」とコメントがあり、更なる復興に向け、引き続き取り組んでいくことを確認しました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課 ☎ 019-629-6935



コメントを述べる達増知事



オンライン参加委員の様子

公表 令和4年第1回いわて復興ウォッチャー調査結果、公表

岩手全域
 ALL IWATE

岩手県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

この調査は、平成24年から行っており、沿岸地域にお住まいの方々や働いている方々に、半年に1回継続して実施しているもので、被災者の生活や地域経済の回復、災害に強い安全なまちづくりに対するそれぞれの実感について取りまとめています。

今回の調査結果については、「達成した」「やや達成した」の割合が、被災者の生活の回復度で86.1%、災害に強い安全なまちづくりの達成度ではこれまでで最高値の77.5%でしたが、地域経済の回復度は50.9%となっています(調査結果グラフ参照)。

調査結果詳細は、県ホームページで公表しておりますのでご覧ください。

【】は「回復(達成)した」「やや回復(達成)した」の合計
 ()内は、前回調査(令和3年7月)からの増減



■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
 ☎ 019-629-6935



←調査結果詳細はこちら

併せて更新された
 インデックスはこちら→



公開

復興情報発信ポスター&
動画の新作を公開

ポスター「看護師・保健師編」

令和4年2月、岩手県では、震災の風化防止と復興支援への感謝を伝えるため、「いわて・三陸から ありがとう！」をテーマとしたポスター4種類と動画2本を公開しました。

「看護師・保健師編」と「三陸 BMX スタジアム編」はポスターと動画が、「宮古チーム漁火編」と「もりおか復興支援センター編」はポスターがそれぞれ制作されました。

ポスターは、3月上旬から都営地下鉄全線の車内に掲示されるほか、県内外各地で開催される復興ポスター展で活用されます。動画は特設サイト「いわてとあなたが、つながるページ」などで公開していますので、ぜひご覧ください。

■問い合わせ 岩手県政策企画部広聴広報課
☎ 019-629-5283



←いわてとあなたが、つながるページはこちら

開催

「復興五輪」いわて感謝祭開催

盛岡市
MORIOKA

令和4年2月11日(金)、盛岡市で、「復興五輪」いわて感謝祭が行われました。

約340名が参加した感謝祭では、岩手県内でのオリンピック聖火リレーやパラリンピック聖火フェスティバルに参加した方々とともに、女子ソフトボールの宇津木麗華監督と上野由岐子選手、柔道のウルフアロン選手、卓球の水谷隼さん、パラトライアスロンの谷真海選手の5人のオリンピックやパラリンピアンをゲストに迎え、復興五輪を締めくくるスペシャルリレートークが行われました。

リレートークは、「ありがとう」、「未来」、「夢」、「スポーツのチカラ」をテーマに実施され、上野選手は「あきらめない心」、ウルフ選手は「夢は大きく目標は身近に」など、ゲストから夢を追うことの大切さが熱く語られ、子どもたちにエールが送られました。

参加した方々は、夢へチャレンジすることの大切さを実感しながら、トークショーを楽しみました。

トークショーの様子はこちら➔



■問い合わせ

文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室
☎ 019-629-6798



トークショーの様子(左から上野選手、水谷さん、ウルフ選手)

世界へ、未来へ いわて TSUNAMI つなみ メモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和4年2月5日(土)から13日(日)まで、東日本大震災津波伝承館に隣接する道の駅高田松原に、震災遺構である「奇跡の一本松」の根が展示されました。

今回の展示は、高田松原津波復興祈念公園が昨年12月に全面供用されたことを受け、震災から11年を前に、大切に保管してきた陸前高田市が特別に公開したものです。

一本松の根は、東日本大震災津波により失われた約7万本と言われる名勝・高田松原の松林の中で唯一倒されずに残った奇跡の一本松のもので、高さ約2メートル、幅約7メートル、重さは1.7トンあり、その姿と保存の経緯などを示すパネルに、多くの方々が足を止めて見入っていました。

見学した方々は、展示された根の大きさと力強さに驚くとともに、伝承館や、奇跡の一本松などの震災遺構を見学し、震災津波の事実と教訓を学び、防災や避難の重要性を再確認しました。

■問い合わせ
東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455



公開された「奇跡の一本松」の根



展示パネルに見入る来場者の様子

取組

ローカル5Gによる東日本大震災 津波伝承館の遠隔見学実施

陸前高田市
葛巻町
RIKUZENTAKATA
KUZUMAKI

令和4年2月14日(月)、岩手県では、高速で大容量の通信ができ、複数の端末で時間差なく同時に通信できる次世代通信システムを活用したローカル5Gを用い、東日本大震災津波伝承館と県立葛巻高校を結び、遠隔見学を行いました。

今回は、伝承館内を案内する解説員を自動で追いかけるロボットやVRゴーグル等を活用し、葛巻高校の生徒が伝承館を実際に訪問しているかのような遠隔見学を体験しました。

参加した生徒からは、ロボットやVRを使った見学はとても臨場感があり、津波の怖さを改めて実感できた、今回の体験を生かし災害に対する意識を高めていきたいなどの声が上がりました。

今後、県では、今回の見学会の成果をもとに、伝承館と県内外の学校や伝承施設等との遠隔交流など、ローカル5G等を活用した様々な取組を進めていきます。



遠隔見学の様子

■問い合わせ 岩手県ふるさと振興部科学情報政策室
☎ 019-629-5313

受賞

キャッセン大船渡がふるさと とづくり大賞団体賞受賞

大船渡市
OFUNATO



キャッセン大船渡(写真提供:キャッセン大船渡)

令和4年1月24日(月)、大船渡市のまちづくり会社「株式会社キャッセン大船渡」が、総務省の令和3年度ふるさととづくり大賞の団体賞に選ばれました。

キャッセン大船渡は、平成25年に官民共同出資により設立され、エリアマネジメントの手法により大船渡駅周辺の新たな中心市街地の整備・運営に取り組んできました。

今回、総務省から、官民が連携したハード・ソフト両面の仕組みづくりにより、長期的、継続的に居住地と商業地をつなげる復興まちづくりに取り組んできたことが高く評価され、受賞につながりました。

キャッセン大船渡は、今後も、住民や企業など幅広い団体の交流の場づくりや、大人から子供まで楽しめるワークショップ等の地域づくりイベントなどに力を入れていくこととしています。

■問い合わせ 株式会社キャッセン大船渡
☎ 0192-22-7910

放送

県外からの支援に感謝！ 東海地方で復興テレビ番組を放送

愛知県／岐阜県／三重県
AICHI／GIFU／MIE

令和4年2月19日(土)、愛知県、岐阜県、三重県で、復興テレビ番組「600キロを結ぶ 未来へのメッセージ～岩手と愛知・名古屋 復興10年の絆～」が放送されました。

この番組は、震災から間もなく11年を迎えるにあたり、発災直後から継続的な支援をいただいていた名古屋市との絆や、様々な支援への感謝、岩手県の復興の今や三陸の多彩な魅力を広く発信することを目的に岩手県が企画しました。

番組には司会としてロンドンブーツ1号2号の田村淳さん、ゲストとして手品師で宮城県気仙沼市出身のマギー審司さん、SKE48の須田亜香里さんが出演し、スタジオでは三陸鉄道や海鮮丼「宮古瓶ドン」、山田のかき小屋などのいわての魅力を県内のロケ映像を交え、紹介しました。

また、名古屋市から陸前高田市への職員派遣により、被災者のこころ

のケアや復興まちづくり、なりわいの再生など幅広く支援を行った「丸ごと支援」が紹介され、現在、名古屋市から陸前高田市に派遣されている宮原卓也さんと、名古屋市の進学支援で名古屋市立大学看護学部を卒業し、岩手県大船渡保健所で働く保健師の佐藤舞さんが、復興への熱い思いを語りました。

東日本大震災津波伝承館では、解説員の案内で震災の事実と教訓を紹介し、名古屋市立白水小学校とのオンライン授業の様子を取り上げ、津波最大到達地点に桜を植える活動を行う陸前高田市の桜ライン311へのインタビューなども交え、南海トラフ地震の可能性が指摘されている東海地方での「減災」に向けた日頃からの備えや心構えなどについて考えました。

番組を契機に、東海地方の方々の防災意識の向上や更なる交流に繋が

ることが期待されます。

■問い合わせ
岩手県復興防災部復興推進課
☎ 019-629-6945



番組の様子(写真提供:東海テレビ)



吉里吉里 フィッシャリーナ

風光明媚な海岸で、周辺では釣りや海水浴などが楽しめます。



県内4か所あるフィッシャリーナの一つである大槌町の吉里吉里フィッシャリーナは、船越湾の吉里吉里漁港区域内にあり、プレジャーボートの係留・保管や公園の散策などができる施設です。

春から秋は、散策路から見える大海原や船越半島などの雄大で美しい景色が楽しめるほか、夏には水遊びなど、三陸の四季を満喫できる施設となっています。

今の時期のこの海域では、冬ならではの魚である、アイナメやカレイ、チカなどを釣ることができます。

また、周辺には、絶景と三陸の海の幸を楽しめる観光ホテルや多くのサーファーが訪れる浪板海岸など様々な観光スポットがありますので、併せてぜひ訪れてみてください。

なお、プレジャーボートの係留・保管には、申請をして許可を受ける必要があります。詳細はホームページをご覧ください。

■フィッシャリーナに関するお問い合わせはこちら

岩手県沿岸広域振興局水産部漁港管理課計画管理グループ ☎0193-25-2706



吉里吉里フィッシャリーナ



岩手大槌サーモン祭り(写真提供:大槌町)

久慈市

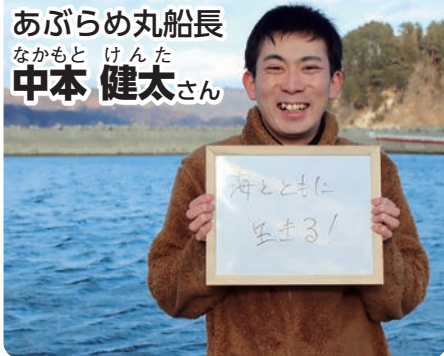
盛岡市 宮古市

大槌町★
釜石市

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第128回は**中本健太**さんをご紹介します

あぶらめ丸船長
なかもと けんた
中本 健太さん



～海とともに生きる！～

PROFILE ——— 埼玉県さいたま市出身。東京大学を卒業後、同大学院に進学。博士課程中の平成27年、東京大学大気海洋研究所国際沿岸研究センターのある大槌町に移住。同センターの特任研究員を経て令和2年に株式会社J-Fitに入社。令和3年、新おつち漁協の準組合員になり、兼業漁師として活動している。

ITエンジニアと漁師の二刀流

中本健太さんは平成27年に、東京大学海洋研究所国際沿岸研究センターで「藻場」の研究をするため、大槌町に移住しました。

転機となったのは、平成31年のことです。藻場の調査で潜水した翌日、肺から空気が漏れる気胸を発症し潜水ができなくなりました。「知人の会社が、漁獲のデータを取り扱う漁協のシステム作りをしており、ゆくゆくは大好きな海の研究に生かせると考え、入社しました」と振り返ります。

その後、引越先の隣に住んでいた漁師さんに「お手伝いさせてください」と弟子入りしました。「半年後に、師匠のタコ籠漁などの手伝いを足がかりに、漁協の準組合員になることができました。サツパ船の用意やウニの出荷など、皆さんに手を差し伸べて

いただきました。現在はITエンジニアを本業に、兼業漁師としてウニ漁やタコ籠漁に出ています」と笑顔で語ります。

海や魚に興味を持つきっかけづくり

中本さんは、海に触れる中で、大槌の海の豊かさに改めて気付きました。そこで、もっと地元の人に大槌の海や魚に興味を持ってもらいたいと考え、3年かけて153種の魚類の写真掲載したクリアファイル「大槌の海産魚類図鑑」を作成しました。

「同じ魚でも、地域で呼び名が違います。例えば、大槌町の人たちは「しまはぜ」と言う魚を釜石市の人たちは「ラグビー」と呼んだりします。これからは魚に関する知識を生かし、釜石や宮古版の図鑑も作り、一般の人たちが魚を買う機会が増えてくれれば」と思いを込めます。

岩手県の被害状況

令和4年1月31日現在

- 人的被害 死者：5,145人(余震、震災関連死を含む)
行方不明者：1,110人
- 建物被害(住家のみ、全半壊)26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和4年1月31日現在

- 義援金受付状況 188億1,206万円(98,481件)
- 寄附金受付状況 203億2,731万円(14,143件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 104億4,824万円(26,355件)
※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第182号

令和4年2月28日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・印刷／永代印刷株式会社

次回は令和4年3月25日の発行を予定しています。